

＜基調講演＞

アクティブ・ラーニング & カリキュラム・マネジメント

2018(平成30)年5月9日

学術総合センター 一橋講堂

天笠 茂(千葉大学特任教授)

目次

- I. 学習指導要領改訂のグランドデザイン
- II. 理念の実現をはかる〈手立〉てとして
- III. カリキュラム・マネジメントをめぐって
 - 【その1】授業改善と教科横断
 - 【その2】PDCAサイクルの確立
 - 【その3】人的・物的資源の活用
- IV. 教職員に、組織にカリキュラム・マネジメント力
- V. 校内における組織的な学習の求め
 - 総則を学習材として開発する —

I. 学習指導要領改訂のグランドデザイン

「社会に開かれた教育課程」という理念

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

○ 学習指導要領等の枠組みの見直し（「学びの地図」）

○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」）

○ 「カリキュラム・マネジメント」の実現

資質・能力を教育課程において明確化

○育成を目指す資質・能力

三つの柱のバランスの取れた実現

- (1) 知識及び技能が習得されるようにする。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養する。

学びの過程を質的に高めていく

—「主体的・対話的で深い学び」の提起—

○改訂が重視したのは、教育の質的転換であり授業の質の改善である。めざすところは、学習者の主体性・能動性を引き出しつつ、深い学びの実現である。

○「知識・技能」にとどまらない「思考力・判断力・表現力」の育成を重視する改革であり、授業改善の求め。

○学習の内容と方法の両者を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくこと。

(中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(2016(平成28)年12月21日))

Ⅱ．理念の実現をはかる ＜手立＞てとして

車の両輪として

○三つの<手立て>

- ・学習指導要領等の枠組みの見直し(「学びの地図」)
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現(「アクティブ・ラーニング」)
- ・「カリキュラム・マネジメント」の実現

○車の両輪としての「アクティブ・ラーニング」&「カリキュラム・マネジメント」

Ⅲ. カリキュラム・マネジメントをめぐって

カリキュラム・マネジメント

—「答申」—

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

【その1】授業改善と教科横断

教科横断的な視点をもったカリキュラム・マネジメント

○21世紀型の資質・能力の育成は、一つの教科等をもって単独で迫れるものではなく、教育課程を構成するすべての教科等が、それぞれの役割を果たし、そして連携と横断を生み出すことによって、成果を得るに至る。

○教科横断的な視点をもって教育内容を組織的に配列していくカリキュラム・マネジメントが強調されたのも、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業改善と密接に関わりがある。

教育課程全体で取り組む課題

○現代的な課題

- ・環境教育
- ・キャリア教育
- ・情報教育
- ・防災教育
- ・食育
- ・ESD
- ・プログラミング教育 など

「各学校が定める内容」

(小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編)

○現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

- ・国際理解
- ・情報
- ・環境
- ・福祉
- ・健康

○地域や学校の特色に応じた課題

- ・町づくり
- ・伝統文化
- ・地域経済
- ・防災

○児童の興味・関心に基づく課題

- ・キャリア
- ・ものづくり
- ・生命

育成を目指す資質・能力

○言語活動の充実〈横串を刺す〉

〈国語科が、中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向上を図るとともに、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することがカリキュラム・マネジメントの観点からも重要である。〉

【その2】PDCAサイクルの確立

—教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る—

教育課程の編成・実施・評価・改善

学校教育目標→教育課程の編成→各教科等の年間指導計画



授業の指導案の作成



授業の展開→授業の評価→単元の評価・改善→指導計画の評価・改善



教育課程の評価＝学校評価



改善への取り組み→次期の目標・計画の作成

☆学校教育目標を見直す

☆授業の振り返りを組織の営みとして確保する

☆カリキュラム・マネジメントと学校評価をリンクさせる

☆学校教育目標を見直す

総則 第2 教育課程の編成

1. 各学校の教育目標と教育課程の編成

「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。」

☆授業の振り返りを組織の営みとして確保する

＜授業の振り返りを学校評価につなげる＞

- ・学習評価－カリキュラム評価－学校評価
- ・単元を含む年間指導計画への評価
- ・年間指導計画をもとにしたカリキュラム評価
- ・カリキュラム評価をもとにした学校評価

☆カリキュラム・マネジメントと学校評価をリンクさせる

＜学校評価の営みは「カリキュラム・マネジメント」そのもの＞

◇学校教育目標を評価する

◇学校評価をめぐるスケジュールの見直し

- ・次年度の教育課程の検討と学校評価との関係
- ・年度の途中に実施する学校が現れる
- ・学期末、年度の間での学校評価⇒学校改善のための時間の確保
- ・学校評価のスケジュールの作成そのものが学校経営の工夫として問われる

【その3】人的・物的資源の活用 —「チーム学校」のもとに—

全ての教職員で創り上げる各学校の特色

○これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の内容と教育課程全体とを往還させるとともに、人材や予算、時間、情報、教育内容といった必要な資源を再配分することが求められる。

○カリキュラム・マネジメントは、全ての教職員の参加によって、学校の特色を創り上げていく営みである。

○問われる「チーム学校」の在り方

ヒト・モノ・カネ・時間・情報など 経営資源の投入

- すべての職種の経営参加
- 学校事務職員、養護教諭、栄養職員などと学級担任、教科担任との連携
- 教務主任のリーダーシップとミドルリーダーの協働
- 地域の人々の参加
- 時間という経営資源
- カリキュラムを核に協働する組織文化の形成

IV. 教職員に、組織にカリキュラム・ マネジメント力

＜協働＞を生むカリキュラム・マネジメント

◎教職員全員による衆知の結集：協働

⇒協働によって教育課程の編成・実施・評価を築く。

⇒教科意識を超えた総合的なカリキュラムの具体化

参加・参画による カリキュラム・マネジメント

○教職員全員の経営参加による学校の特色づくり

⇒「カリキュラム・マネジメント」は全ての教職員が参加することを通して、特色を創り上げていく営みである。

⇒学校教育目標や育成を目指す資質・能力、学校のグランドデザイン等をとらえ、取組の方向性を共有する。

○授業から、学級経営から、教職員それぞれの立場から、教育課程へのベクトルを生み出す。

問われるカリキュラム・マネジメント力

- 学習指導要領、教育課程、カリキュラムなどに関する基礎的知識
- 特色ある教育課程を編成する技法
- 学校教育目標に基づいて教育課程の編成・実施・評価・改善が行われるようにする技法
- 教育課程を具体化するために校内研修を企画し実施する技法
- 教育課程を核に協働を生み出す技法

**V. 校内における組織的な学習の求め
—総則を学習材として開発する—**

教育課程(カリキュラム)とは

—総合的に組織した学校の教育計画—

○教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、総合的に組織した学校の教育計画

○教育課程の構成要素

①教育理念・目標(教育目標、ビジョン、校訓、めざす学校像、育てたい児童・生徒像、育てたい学力、本年度の重点目標、等)

②組織配列した教育内容(各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、年間指導計画、等)

③配当した授業時数(日課表、週時程、月間行事計画、年間行事計画、等)

④教材・教具・施設・設備

カリキュラム・マネジメントのチェックリスト

新学習指導領総則

前文

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

第2 教育課程の編成

1. 各学校の教育目標と教育課程の編成
2. 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
3. 教育課程の編成における共通的事項
4. 学校段階等間の接続

第3 教育課程の実施と学習評価

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
2. 学習評価の充実

第4 児童の発達への支援

1. 児童の発達を支える指導の充実
2. 特別な配慮を必要とする児童への指導

第5 学校運営上の留意事項

1. 教育課程の改善と学校評価等
2. 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育に関する配慮事項

参考文献

- ・天笠 茂『カリキュラムを基盤した学校経営』ぎょうせい 2013年9月
- ・天笠 茂(監修)『管理職課題解決実践シリーズ』全5巻 ぎょうせい 2015年3月
- ・天笠 茂『学校と専門家が協働するーカリキュラム開発への臨床的アプローチ』第一法規 2016年5月
- ・天笠 茂(編著)『平成29年改訂 小学校(中学校)教育課程実践講座 総則』ぎょうせい 2017年10月